

# 1 課

4月3日

## 何が起きたのか



安息日午後 3月27日

### 暗唱聖句

神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。(創世記 1:26、27、新共同訳)

神はまた言われた、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべての這うものを治めさせよう」。神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。(創世記 1:26、27、口語訳)

### 今週の聖句

詩編 100:3、使徒言行録 17:26、創世記 2:7、18~25、創世記 1:28、29、創世記 3:15

### 今週のテーマ

人間の創造についての創世記の記述は、希望、幸福、そして完全に満ちたものです。創造の一日一日は、神の「良しとされた」との宣言で終わりました。

創造の六日目も、神の「それは、極めて良かった」との宣言で終わりました。その日に主は、ご自分の御姿にかたどった存在である人間を創造されたからです。それは創世記の記述の中で、他に類を見ない方法で創造されたものでした。その存在は、もちろんすべての点で完全であり、それは彼らのあるべき姿でしたが、なんといっても、彼らは神の御姿に似せて造られたのでした。ですから、まったくの必然として、彼らの中には、殺人者も、盗人も、嘘つきも、詐欺師も、そして不道徳な者も含まれてはいませんでした。いったい何が起きたのでしょうか。

今週の学びでは、創造について、神が初めに造られたものについて、そして完全であった創造の御業に何が起きたのかを見ていきます。そして最後に、今期のテーマである、世界を正しい状態に回復するために神が何をなさったかについて触れます。

### 今週のポイント

アダムとエバの墮落の直後に、どんな希望が与えられましたか。

「初めに、神は天地を創造された」（創1：1）。

ある科学者が、太陽の周りを回る惑星の軌道と銀河系の中心の周りを回る太陽の軌道についての講義を終えたとき、黒いテニスシューズを履いた1人の老婦人が立ち上がり、「地球は亀の甲羅の上に乗った平らな円盤なのだ」と言いました。

この話は、人間の存在という究極の問題を扱っています。それはつまり、宇宙はどうして存在するのか。私たちが選択の余地なくそこに生きるこの世界はなんなのか。なぜ私たちはここにいるのか。どのようにして私たちはここに来たのか。そして、私たちは最終的にどこに行くのか。

これらは、人の存在に関わる最も根本的な疑問です。私たちがだれで、どのようにしてここにいるのかを理解することは、私たちがこの世界にいる間、どのように生き、どのように行動するべきかを理解する上で、大きな意味を持つからです。

**問1 次の聖句を読んでください（創1：1、詩100：3、イザ40：28、使17：26、エフェ3：9、ヘブ1：2、10）。これらの聖句は、それぞれどのように前述の疑問に答えていますか。その答えに共通することは何ですか。**

創世記1：1で（聖書の他の箇所でも）興味深い点は、主はご自身が創造主であることを証明しようとはされないことです。それを正当化も、説明も、証明もしようとせず、ただ単純明快に事実を述べています。その事実を私たちが信仰をもって受け入れるか否かは、私たち次第なのです。実際のところ、信仰は私たちがその事実を受け入れるための唯一の方法なのです。なぜなら、今、地上に生きる私たちは、だれも天地創造を見たことがないからです。もっとも、私たちがそこにいたとしても、私たち自身が創造されるのを見ることは理論的に不可能ですが。創造の現場にいなかった以上、私たち創造論者と同じように、非宗教論者もまた、信仰の目でその状況を見なければならぬことに変わりはありません。

神は理由もなく、ご自身が創造主であることを私たちに信じるようにお求めにはなりません。私たちが信じるためには、何事によらず、ある程度信仰が必要です。そのことを頭に置いて、「私たちの起源はまったくの偶然によるのではなく、創造主が意図をもって私たちを地上に置かれたからこそ、私たちはここに存在するのだ」と信じる信仰を持つことの意味を書き出してみましょう。

問2 聖書は、神が人間を男と女に、「御自分にかたどって」(創1:27)、創造されたと述べています。この考えに基づいて、次の質問に教えてください。

- (1) 神が私たちをご自身にかたどって造られたことは、何を意味しますか。私たちのどんなところが、神の御姿に似ているのでしょうか。
- (2) 神は人間以外を何も、「御自分にかたどって」お造りにはならなかったのでしょうか。もしそうであれば、他の被造物と比べて、人間のユニークさはどこにあるのでしょうか。
- (3) 神が、どんな被造物とも異なる特別な存在として人間を創造されたという記述から、他にどんなことを見いだすことができますか(創2:7、18~25参照)。

私たちについてただ言えることは、私たちの身体的、知的、靈的性質の中に、私たちは何らかの方法で天の創造主を反映しているということです。その御姿は、神秘に包まれながらもなお、私たちのためにその多くが私たちの中に残されているのです。しかしながら、聖書は私たちの心の靈的、知的面を強調します。これらの面を私たちは開発し、向上させることができます。これこそが人間の心のユニークさなのです。この能力によって、人間は神との関係を育むことができます。

男も女も共に、神の御姿にかたどって造られたという信じがたい特権を共有しています。神は二人を最初から平等に造られ、共にご自身との特別な関係の中に置かれました。二人は共に主に栄光を現すために、神から与えられた品性を発達させる機会を同じように持っていました。

「神ご自身が、アダムに伴侶をお与えになった。神は、『彼にふさわしい助け手』すなわち、彼にちょうど合った助け手、彼の伴侶となるにふさわしく、彼と1つになって、愛し、同情することができる者をお与えになった。エバは、アダムのわきから取られたあばら骨によって創造された。このことは、彼女がかしらになって彼を支配するのでもなければ、彼よりは劣ったものとして彼の足の下に踏みつけられるものでもなく、同等のものとして、彼のかたわらに立ち、彼に愛され、守られるものであることを示している」(『希望への光』20ページ、『人類のあけぼの』上巻21ページ)。

聖書に出て来る、神が最初に人間に語られた言葉に注目してください。神は、彼らが子どもを産み、同じ種をさらに繁殖させる能力について指摘しています。主はまた、彼らに地と、創造の御業とを示し、地を満たし、地を従わせ、そして支配するように言われます。主はまた、彼らが食べることができる植物を示されます。まとめると、聖書はここで、男と女への神の最初の言葉は、特に彼らの物理的世界との関わりと関係について述べています。

**問3** 創世記1：28、29によれば、神は物質的世界をどのようにご覧になっていますか。そこには、何か私たちにとって悪いもの、あるいは私たちが楽しめないようなものが含まれていますか。これらの人類歴史の最初の場面から、私たちは被造物とどのように関わるべきでしょうか。

これらの聖句によれば、神はまた、人間との関係に最初の一步を踏み出しておられるのがわかります。神は彼らに語りかけ、彼らに指示を与え、するべきことを告げておられます。これらのみ言葉には、暗に責任も示されています。神は、ご自身が造られたこのすばらしい被造物の主人となるように求めておられるのです。

**問4** 創世記1：28には、神がアダムとエバを祝福されたとあります。それはどういう意味でしょうか。彼らと彼らの創造主との間にあるどのような関係がそこに暗示されているのでしょうか。

神は、アダムとエバを、神の善意に応えて、主との交わりと親睦に入ることができる知的な存在として扱われたのです。アダムとエバはまた、造られた子どもとして、創造主なる父の祝福と守りに依存する存在でした。主は彼らの必要のすべてを満たされるお方でした。彼らは、主がお与えになったものに値することは何もありませんでした。彼らは純粹に、彼らは何かをして得ることのできないものを受けたにすぎません。

今日の学びを振り返り、今も私たちが主とどのように心を通わせることができるかを考えてみましょう。

「主なる神は人に命じて言われた。『園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう』」(創2:16、17)。

この試験は、アダムとエバに彼らの自由意思を用いる機会を提供しました。それはまた、彼らの創造主との関係に対して前向きに応えるか、否定的に応えるかを彼らに迫るものでした。それはまた、神は彼らを自由で道徳的な存在として造られたことを示していました。つまり、もし彼らが従わない機会を持っていなければ、どうして主は初めから彼らに不服従に対して警告を与える必要があったのでしょうか。

「この章に先立つすべては、このクライマックス〔創2:16、17〕へと敷かれた道にすぎません。人類の未来は、このたった一つの禁止事項にかかっています。人は多くの選択肢のある問題を前に困惑していたわけではありません。心に留めるべき神からの定めはたった一つでした。かくして、多くの命令がこの一つに集約されていたのです。ヤハウェは、その憐れみの象徴として、この戒めをお与えになったのです。一方、この一つの戒めは過酷なものではありませんでした。主はこの戒めの背景に、『園のすべての木から取って食べなさい』という広大な許可を与えておられたのです」(H・C・リューポルド『創世記注解』1巻127ページ、英文)。

アダムとエバに主のご意思に従うようにお招きになることによって、神は「私があなたの造り主である。私はあなたをわたしにかたどって造ったのだ。あなたの命は私によって維持されており、私によってあなたは生き、動き、あなたでいられるのだ。私はあなたの安心と幸福のためにすべてを与え(食べ物、家、人間の仲間)、そして私の下で、あなたをこの世界の支配者として立てた。もしあなたが、私を愛するがゆえに、この私との関係を喜んで守るなら、私はあなたの神となり、あなたは私の子となるのだ。そしてあなたはこの関係を守ることができ、私への信頼はこの明確な命令にただ従うことによって示されるのだ」と言っておられたのです。

神は、神に対するアダムとエバの忠誠と信仰を試されました。私たちもまた、日々同じように、神への忠誠と信仰を試されているのでしょうか。神の戒めは、創世記2:16、17とは違うかもしれませんが、あなたにどのような選択を迫っていますか。

問5 私たちは本能的に、知っている人は信じ、知らない人は信用しないものです。エバはサタンを信用していませんでした。さらに、神を直接攻撃する言葉に警戒を強めました。この警戒を解くために、サタンはどんな段階を踏みましたか（創3：1～6）。

「エバの背信と不安は、人類家族の中に内在する悲嘆と同じように嘆かわしいものであったが、彼女の選択は、必ずしも彼女の背信に対する罰を人類に負わせるものではなかった。彼女よりもむしろ、神の明白なご命令を完全に理解していたアダムの故意の選択が、多くの人類にとって罪と死を避けられないものにしたのである。エバはだまされたが、アダムはそうではなかった」（『SDA聖書注解』1巻231ページ、英文）。

この公然の背信と神のご命令の無視の結果、神と人類との間の関係は現在も壊れています。この背信は、神との開かれた交わりを変えて、人に神を恐れ、御前から隠れました（創3：8～10）。交わりと親睦に代わって、孤立と離別が主との間に入り込みました。このままでは、人類は永遠の滅びに向かうのです。

問6 このような悲劇のただ中に、神はどんな希望と約束をお語りになりましたか（創3：15 参照）。

神の驚くべき預言的な希望のみ言葉は、蛇と女の間、蛇の子孫と女の子孫との間に置かれた、神によって定められた敵意について語ります。この預言は、女の子孫を代表する者の勝利に満ちた登場でクライマックスを迎えます。蛇は救い主のかかとを砕きますが、彼はサタンの頭に致命的な打撃を与えます。

アダムとエバは、どうしようもない無力さの中で、メシア到来の約束による希望、彼らの存在をまったく変える希望を手にしたのでした。なぜなら、この希望は神によって与えられ、神によって維持される希望だったからです。この時点ではまだ漠然としたものでしたが、このメシア到来とその最終的な勝利の約束は、罪によって暗い影の中に落とされた彼らを引き上げるに十分な希望でした。

創世記3：9で、神はアダムとエバに「どこにいるのか」と言われます。私たちは今も、どのようにしてその恵みと憐れみに招いておられる神を見いだすことができるでしょうか。

聖書は、罪人たちと元の悪習に戻ってしまった者たちへの招きに溢れています。詩編95:7、8、イザヤ55:1、2、6、7、ルカ15:3~7、19:10を読み比べてください。他にもそのような例がありますか。

参考資料として、『人類のあけぼの』第3章「天地創造の1週間」、第4章「エデンの園の悲劇」、第5章「人類救済の計画」を読みましよう。

「茂みを貫いて逃亡者たちの耳に届いたその天からの言葉の中には、福音のメッセージがあったのだと私は思う。すなわち、『どこにいるのか』との御声には、あなたの神はあなたが失われるのを喜ばれない。主はあなたを探すために来られるとのメッセージが含まれている。それは、やがて主は、人となられたみ子のうちに、失われたものを捜すためだけでなく、救うためにおいでになることをも意味するのだと」(チャールズ・スポルジョン『聖書の宝——旧約聖書』第1巻11ページ、英文)。

## 話し合いのための質問

- ① 神は人類を探してくださる優しく思いやりのあるお方です。私たちは今、どのように父なる神とイエス・キリストのこの愛に応えることができるでしょうか。
- ② 聖書の描く、神の創造という高みから落ち、<sup>あがな</sup>贖いを必要とする人類と、進化論による人類の発生と進化を比べてください。どちらにより希望がありますか。それはなぜですか。
- ③ 人間の幸福にとって、愛の関係はどのように欠かせないものですか。そのような関係に、なぜ神との確かな絆が必要なのでしょう。次のような関係において、健全な人間関係が持つ影響力について話し合いましよう(親子、友人同士、夫婦、雇用者と被雇用者など)。

## まとめ

神はご自身にかたどって私たちを造られたので、神と私たちの間には愛の交わりがありました。罪の侵入がこの本来の関係を破壊しましたが、神は贖いの計画を通して、この関係を回復しようとされます。神に依存する被造物として、私たちは、私たちの造り主との交わりに入るときにのみ、私たちの人生は真の意味と明瞭さを持ちます。

## 耳が不自由な最初の神学生

メキシコのメリダの家で、セブンスデー・アドベンチストの母は、赤ちゃんだった私が、音に反応しないことに気づきました。私は2歳のとき、手話と話し方を学ぶ特別支援学校に入りました。母は、息子が自分の声を聞くことができないことを悲しみ、泣いていました。「心配することはありません。忍耐してください。すべては、うまく行きます」と先生は言いました。

私は特別支援学校に、毎日2時間かけて通いました。また、アドベンチストの学校でも毎日2時間勉強しました。アドベンチストの学校では、読み書きと、大切な神様について教えてもらいました。私は、アドベンチストの学校に8歳まで通いました。しかし、学校には手話を知っている先生がいなかったため、母は、私とコミュニケーションを取ることのできる先生がいる公立の学校に転校させることにしました。

その後、リング・ヴィスタ・アドベンチスト大学で開かれた集会で、私は初めて、同じ聴覚しょうがいを持った若いアドベンチストたちに出会いました。すばらしい経験でした。私は2年後の集会にも招待されました。そして、メキシコのモンテモロス大学で開かれた、特別なニーズを持った人のための集会にも参加しました。そこで、牧師として神に仕えたいという希望が大きくなりました。しかし、私にはお金がなく、授業料を払うことができません。すると集会の終わりに、学長が驚くべき発表をしました。「ここで学びたい人はいませんか」と。授業料に必要な奨学金がすべて提供されることになりました。私は、その時、神様が自分を召しておられることを知り、立ち上がりました。

私は、この大学で学ぶ、耳が不自由な最初の神学生です。大学では、だれも手話を知らないため、学びは困難です。私は懸命に集中し、先生の唇を読むことに注力しています。また、聴覚しょうがいを持った人々のための伝道集会を何度か担当しました。耳の不自由な人のいる教会が、私を説教者として招いてくださったのです。私は卒業したら牧師になり、宣教師として、聴覚しょうがい者のために奉仕する大きな希望を持っています。

聴覚しょうがい者のためにお祈りください。私たちには、夢があります。私たちは、主のために、喜んで何でもしたいと思っています。

